

## 函館におけるまちづくり研究会におけるFGPJタスクフォースの活動

中村 拓也 Future Generation Project タスクフォース / DAIMON2030 検討委員会 事務局長 /  
株式会社 函館ラボラトリ マネージャー

### 1. 「DAIMON2030 検討委員会」とまち育てサロン

北海道支部では、次世代のための都市計画のあり方や学会の役割を実証的に考える取り組みとして、池ノ上真一（札幌国際大学教授）を中心に FGPJ（Future Generation Project）タスクフォースを2018年度より実施しています。前年度は、これまでの「まちづくりサロン」を発展させ、まちの課題解決としてのエリアマネジメントという視点に立ち、地域のステークホルダーと市民との現状や未来に関して語り合う場「DAIMON2030 検討委員会」を立ち上げ、2030年の将来像を描くための体制づくりや試行を行いました。

今年度は「まち育てサロン」に取り組みしました。週1回、函館駅前・大門地区内の喫茶店・カフェを巡り、当該地区の将来に興味・関心を持つ人を対象に、記憶や思い、将来への展望・アイデア等を語り合いました。

### 2. 太陽グループアイデアソン

函館市商工会議所経由で、当該地区の土地所有者から若者による土地の活用案提示の依頼がありました。そこで、我々がプログラムを企画・運営し、北海道教育大学函館校の学生を中心としたアイデアソンを行いました。発表会には、見学者を含め30名ほどが集まりました。大型商業施設の建設といったハード面だけでなく、「インスタ映え」や「オシャレな空間」等といった若者らしい視点から、巨大トランポリンによる賑わい創造といった奇抜なアイデアを含め、幅の広い提案が行われました。

### 3. 地方創生カレッジ in 函館

また、日本生産性本部が運営するeラーニングを中心とした地方創生事業のオンサイト版を当該地区にて実施することになりました。延べ288名の函館圏の官・民セクターが、10のグループに分かれ、3回にわ

たるレクチャーと5回のグループ討論を重ね、2030年の当該地区再生のシナリオ案を協働により描きました。残念ながら新型コロナウイルス感染防止対策により最終発表会が中止になってしまいました。しかし DAIMON2030 検討委員会として、今後、公民連携で描いたシナリオ案を地域に届け、まちに多くの人が興味・関心を持つ機会を創造する予定です。

### 4. コミュニケーション・コスト、縮小から凝縮へ

最後に私が2019年度の取り組みを通し、感じたことを整理します。

一つは、市民誰もが身の回りの問題・課題に興味を持ち解決する、あるいはまちを楽しむには、個々人にとって有用な情報の流通量が増えるような方策が必要だと強く感じました。しかし、全ての人が積極的に情報を得るために行動するとは限りません。そのため、徒歩や公共交通の利用により、たまたま同じ場所に居合わせたり、すれ違うようなシチュエーションを増やすことで、コミュニケーション・コストを下げつつ情報の流通量を増やすまちづくりが必要と考えます。

二つ目に、函館にはいま、数パターンの未来予測が必要と考えます。まずは人口・経済両面における縮小の予測です。まちがどういう順番で縮小していくのかをある程度見極められれば、「縮小」をポジティブに捉え「凝縮」に向かえるはずで、また、技術革新の予測も大切で、特に人の移動と物流の面に注目しています。未来の交通手段が変化していくさまを見据えつつ、まずはやれる範囲として、徒歩ないし公共交通などの利用を伸ばすまちづくりが有効と考えます。

当該プロジェクトの成果を活かすことで、市内の各拠点についても時代に合わせしなやかに対応できるよう、「凝縮」したいと強く思うところです。



太陽グループアイデアソンの様子



DAIMON2030 検討委員会 全体会議の様子